

2026年4月22日

報道関係者各位

<特別展のご案内>

きら
金銀雲母きら —かがやきの日本美術—

会期 2026年6月14日(日)～12月6日(日)



①メインビジュアル

岡田美術館(箱根町・小涌谷)では、2026年6月14日(日)～12月6日(日)に、特別展として「金銀雲母きら —かがやきの日本美術—」を開催いたします。

金・銀をはじめとする輝く素材は、古来、洋の東西を問わず人々の心を引きつけ、尊ばれてきました。聖性や高貴さ、権力の象徴として、あるいは豪華な装飾などに使われ、素材の美を追求した作品も作られています。

日本で貴族文化が栄えた平安時代には、金・銀が併用されることが多く、雲母と呼ばれる白雲母しろうんもの微粉きぼも好まれました。金・銀の繊細な表情や雲母の白くやわらかな輝きに、日本人の洗練された美意識がうかがわれます。

本展では、平安時代の経典と書跡を核とし、桃山時代から現代に至る絵画、書跡りょうし、やきもの、漆芸を合わせて約40件を展示します。美しい料紙(書を記す紙)、上品な雲母摺きらずりの冊子、金・銀を施した屏風など、多様な「かがやきの美術」をお楽しみください。

見どころ1

平安時代の金・銀・雲母とそのリバイバル トピック:雲母に注目!

見どころ2

絵とやきものに見る金銀の多様な表現

見どころ3

しつげい
漆芸のかがやき —日本・琉球・韓国—

【お知らせ】 ミュージアムグッズのオンライン販売開始!

見どころ1 平安時代の金・銀・雲母とそのリバイバル トピック:雲母に注目!

金銀と雲母の表現が美麗を極めたのは平安時代のことでした。仏教を篤く信仰した天皇や公家、武士たちが功德を願って写経の事業を盛んに行い、金銀を経文や絵に使っています。また、流麗な仮名で和歌を記す冊子や卷子などのために、金・銀・雲母を駆使した料紙が作られました。

平安後期の経典、書の名品とともに、古典に倣いつつ新たな美を創造した桃山～江戸時代初期の和歌色紙や謡本、現代の名筆による和歌巻などを展示します。

平安時代

金銀の文字を紺色の紙に

金・銀・瑠璃(青玉)などでできていると経典に記される極楽浄土のイメージ。



②「仁王経 巻上」(中尊寺経・部分) 平安時代後期

平安時代の書と料紙の白眉

和歌集の2ページを改装した掛軸。右の見事な書の料紙は、色紙を継ぎ合わせ雲母砂子を撒いたもの。左は雲母摺。ともに繊細な銀泥絵がある。



(拡大)

③「石山切」(伊勢集断簡) 平安時代 天永3年(1112)頃 重要美術品

リバイバル

やわらかな色の紙に雲母摺が映える

平安時代のあと途絶えた雲母摺は、桃山時代に復興された。この本は、表紙だけでなく本文の紙にも雲母を施す。



④「謡本」(表紙) 桃山～江戸時代初期

平安の繊細さと
桃山のおおらかさ

宗達は平安時代の金銀泥絵を、光悦は日本と中国の古い書を学び、新しい時代の感覚でアレンジ。



⑤ 依屋宗達下絵・本阿弥光悦書
「柳に波下絵和歌色紙 はるごとに」
桃山～江戸時代初期

現代の名筆による卒寿記念の大作

古典の書を学び続けた研鑽の成果。平安時代の国宝の名品に倣って作られた料紙は、金・銀と雲母を豊かに用いたもの。



⑥ 高木聖鶴「古今和歌集抄」(部分) 平成24年(2012)

トピック

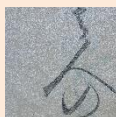
雲母
に注目!!

雲母とは、白雲母を微粉(粉状雲母)や細粒(細かな箔状雲母)にしたもの。光の当たる角度によって、白くやわらかな光沢が浮かび上がる。書跡・絵画などの絹地や紙地に次のように使われてきた。



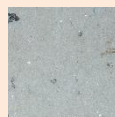
◀ 雲母摺

微粉を糊に混ぜ、版木を使って文様を擦り出す



◀ 雲母引

どうさ 鬚水 ※に微粉を溶いて刷毛で引く



◀ 雲母砂子

細粒を撒く



白雲母の原石

※明礬(みょうばん)を膠(にかわ)に溶いたもので、にじみ止めや絵具の定着のために使う溶液

協力: 栢菅美術料紙研究所、谷中・得応軒

見どころ2 絵とやきものに見る金銀の多様な表現

日本では古来、金・銀が併用されることが多く、意匠や技法を凝らした美術品が作られてきました。金・銀には、聖性、高貴、清浄など抽象的なイメージが託されるほか、金は日光、銀は月光や水など、具体的な事象と結びつけられることがあります。金・銀の扱いは、絵画では比較的容易である一方、やきものでは焼成を1回増やす必要があるため手間と時間がかかり、特に変色しやすい銀彩は稀少なものです。

輪郭に金色の線を重ねて

漢詩を主題にした一双の右隻。楊貴妃が楼閣から苑池を眺めている。金色の線が重なる画面に、唐時代の雅な雰囲気漂う。



⑦池大雅「沈香看花・楓林停車図屏風」のうち「沈香看花図」江戸時代中期



(拡大)第2扇 楊貴妃

萌黄色と金色の優美な色合い

日本で「金 欄手」と称される、金を焼き付けた磁器。この器では金箔を用いる。萌黄地に金彩を施した器は珍しい。



⑧「緑地金欄手牡丹唐草文碗」
景德鎮窯 中国・明時代

金色に輝く蛍の光

水の上を舞い、あるいは岩や木に止まる蛍。箱の記載によれば宇治川の蛍とのこと。



⑩塩川文麟「流崖群螢図」
江戸時代末期～明治時代初期

金地の帯に 銀の菱模様の打掛

京都・島原の太夫が高下駄でゆっくりと歩む。紅白に金銀を組み合わせた豪華な装い。



⑪円山応挙「三美人図」のうち「太夫図」
江戸時代 天明3年(1783)
重要美術品

肥前磁器の金銀彩は1650～60年代頃に限定

舟と芦の葉に金銀の線を重ねている。手前の銀色の曲線は波、金銀の点は水しぶきと思われる。



⑨「染付金銀彩網干文輪花皿」
有田 江戸時代

見どころ3 漆芸のかがやき —日本・琉球・韓国—

金・銀に加えて貝殻の輝きを生かした漆の作品を展示します。漆は、ウルシ科の木の樹液を加工した接着剤、塗料で、東洋独自の技法として発展しました。熱や水に強く、木や布、紙などあらゆる素材に使えるという優れた実用性を備えています。一方、つややかな光沢のある漆地に金属や貝殻など異素材を組み合わせた、多様な美術品が生み出されてきました。螺鈿・蒔絵などの技法を凝らした、きらびやかな漆芸の世界をお楽しみください。

春爛漫の吉野山



⑫「吉野山蒔絵分銅形硯箱」江戸時代

金地に満開の桜が映える。桜は銀蒔絵、山や岩肌は切金（小さく切った金の薄板を貼る技法）を使うなど、技巧を凝らした逸品。



(拡大)

虹色に輝く小箱



⑬「黒漆葡萄栗鼠図螺鈿箔絵小箱」琉球王朝時代

全体を黒漆で塗り、地に細かく砕いた貝片を蒔く。リスとブドウは金箔と螺鈿で表し、線彫りで毛並みや葉脈を加える。



(拡大)

【開催要項】

展覧会名 「金銀雲母きら —かがやきの日本美術—」
会期 2026年6月14日(日)～12月6日(日)
休館日 会期中なし
主催 岡田美術館
所在地 神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷493-1
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
入館料 一般・大学生2,800円(前売り2,550円)
小中高生1,800円

※特別展の内容は予告なく変更する場合がございます
※イベントは参加費無料(要入館料)／申込不要

会期中イベント

- 関連講座
『雲母の美／池大雅の金の使用』
10月10日(土)13:00～14:30
講師:小林 優子(岡田美術館 学芸員)
- 関連スライドトーク
『金銀の美と中国のやきもの —唐時代の金銀器から陶磁へ—』
9月19日(土)13:00～14:00
講師:佐藤 有沙(岡田美術館 学芸員)
- 学芸員ギャラリートーク 特別展「金銀雲母きら」
7月3日～11月27日 毎週金曜日11:00～

ミュージアムグッズのオンライン販売開始！

かねてよりお客様からのご要望が多かったミュージアムグッズのオンライン販売を開始しました。人気の手ぬぐいや蕎麦猪口、美術館の代表作「風・刻」のグッズなどの一部商品をご購入いただけます。ぜひ、皆様のご利用をお待ちしております。



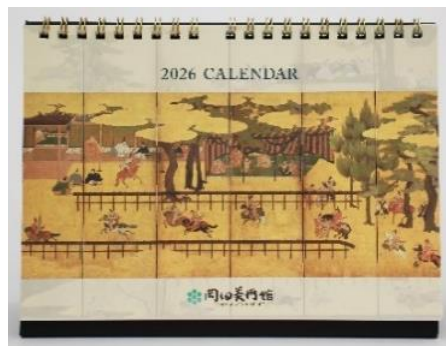
古伊万里の作品をモチーフにした蕎麦猪口のペアセットを、蝶と紅葉、桜の3種類の絵柄でご用意。江戸時代よりやきものの産地として知られる佐賀県有田町で制作。

蕎麦猪口「蝶」「桜・紅葉セット」 5,500円(税込)



酒井抱一が月明かりに照らされる秋草を描いた、風流な屏風を手ぬぐいにした、開館当時の人気商品。

手ぬぐい「月に秋草図屏風」 1,800円(税込)



オリジナル卓上カレンダー 1,700円(税込)

毎年ご好評をいただいている岡田美術館オリジナルの卓上カレンダー。名品12点を月替わりで楽しめます。



便箋セット 1,000円(税込)

江戸時代の陶工である野々村仁清の「色絵七宝文細水指」の柄を施した、便箋と封筒のセット。



携帯クリーナー「風・刻」 1,200円(税込)

美術館のシンボルとも言える風神・雷神の大壁画「風・刻」をモチーフにしたクリーナー。



⑯ミュージアムショップ

UNI-MARKET

<https://www.unimarket-777.com/SHOP/238585/list.html>

当館を運営する株式会社ユニバーサルエンターテインメントの公式Webショップの「UNI-MARKET(ユニマーケット)」にてお買い求めいただけます。

※詳細は上記Webサイトにてご確認ください

【岡田美術館について】

岡田美術館は2013年秋、箱根・小涌谷に開館しました。5フロアからなる広大な館内に、日本をはじめとする東洋の陶磁器や絵画など、多数の美術品を展示しています。現代日本画家・福井江太郎氏によって描かれた風神・雷神の巨大壁画を望む100%源泉かけ流しの足湯カフェや、四季折々に表情を変える庭園を眺めながら食事を楽しめる「開化亭」などの付帯施設も備えています。



大壁画

琳派の祖ともいえる俵屋宗達の「風神雷神図屏風」をもとに、天駆ける箱根の守り神として、福井江太郎氏が現代に甦らせました。構想から完成まで約5年の歳月をかけて制作した大壁画「風・刻(かぜ・とき)」が、皆様をお迎えいたします。

⑰美術館外観



開化亭

昭和初期の日本家屋を改装した風流な飲食施設「開化亭」は、明治半ばにこの地にあった外国人向けホテルにちなんで名づけられました。自然の恵みを感じる庭園を眺めながら、「季節の魚天うどん」などのお食事や喫茶をお楽しみいただけます。

⑱開化亭



足湯カフェ

風神・雷神の大壁画を前にした100%源泉かけ流しの足湯カフェでは、人気の「プレミアム和パフェ」やソフトクリームなどのスイーツ、各種お飲み物をご用意しています。また季節湯や期間限定メニューなど四季折々のイベントも行っていますので、ぜひお立ち寄りください。

⑲足湯カフェ



ミュージアムショップ

「美術館の感動を日常でも楽しめる」をコンセプトに、さまざまなオリジナルグッズをご用意しています。ご自宅でもご覧いただけるように図録や絵はがき、クリアファイルなどのミュージアムグッズを取り揃えています。

⑳伊藤若冲「孔雀鳳凰図」グッズ



㉑展示室イメージ

【1日1組限定】閉館後貸切プラン

閉館後の岡田美術館を貸切にできる、1日1組限定のプレミアムなプランをご用意しております。学芸員の解説付きで展示室をご鑑賞いただけるほか、「開化亭」の奥座敷を貸切にできる無料オプションもございます。

詳細は岡田美術館までお問い合わせください。

広報用・貸出画像 特別展「金銀雲母きら」

【注意事項】

- * 本特別展の紹介に限り使用し、二次使用や改変(部分使用含む)はご遠慮ください。
- * 使用后2週間以内に、貸与したデータをすべて消去してください。
- * 表記一覧に記載した掲載キャプション(作品名、作者名、制作年、岡田美術館蔵ほか)をすべてご記載ください。
- * Web掲載時は「画像写真の無断転載禁止」の旨をご記載ください。
- * 校正原稿を広報担当者までお送りください。※校正期間は中3営業日

		
<p>① 展覧会メインビジュアル</p>	<p>② 仁王経 巻上</p>	<p>③ 石山切</p>
		
<p>④ 謡本</p>	<p>⑤ 柳に波下絵和歌色紙 はるごとに</p>	<p>⑥ 古今和歌集抄</p>
		
<p>⑦ 「沈香看花・楓林停車図屏風」のうち「沈香看花図」</p>	<p>⑧ 緑地金欄手牡丹唐草文碗</p>	<p>⑨ 染付金銀彩網干文輪花皿</p>
		
<p>⑩ 流崖群蛭図</p>	<p>⑪ 「三美人図」のうち「太夫図」</p>	<p>⑫ 吉野山蒔絵分銅形硯箱</p>
		
<p>⑬ 黒漆葡萄栗鼠図螺鈿箔絵小箱</p>	<p>⑭ 春秋図屏風</p>	<p>⑮ 色絵赤玉雲龍文鉢</p>

⑭⑮はメインビジュアルに使用した作品です
⑯～⑳は本プレスリリース内の貸出画像をご確認ください

FAX 0460-87-3934

E-mail pr@okada-museum.com (岡田美術館 行)

プレスリリースをご参照の上、ご希望の写真 No. に✓印を付けてください。

✓	No.	掲載時のキャプション
	1	メインビジュアル
	2	「仁王経 巻上」(中尊寺経・部分) 平安時代後期 岡田美術館蔵
	3	「石山切」(伊勢集断簡・部分) 平安時代 天永3年(1112)頃 重要美術品 岡田美術館蔵
	4	「謡本」(表紙) 桃山～江戸時代初期 岡田美術館蔵
	5	俵屋宗達下絵・本阿弥光悦書「柳に波下絵和歌色紙 はるごとに」(部分) 桃山～江戸時代初期 岡田美術館蔵
	6	高木聖鶴「古今和歌集抄」(部分) 平成24年(2012) 岡田美術館蔵
	7	池大雅「沈香看花・楓林停車図屏風」のうち「沈香看花図」(部分) 江戸時代中期 岡田美術館蔵
	8	「緑地金欄手牡丹唐草文碗」景德鎮窯 中国・明時代 岡田美術館蔵
	9	「染付金銀彩網干文輪花皿」有田 江戸時代 岡田美術館蔵
	10	塩川文麟「流崖群蛸図」(部分) 江戸時代末期～明治時代初期 岡田美術館蔵
	11	円山応挙「三美人図」のうち「太夫図」(部分) 江戸時代 天明3年(1783) 重要美術品 岡田美術館蔵
	12	「吉野山蒔絵分銅形硯箱」江戸時代 岡田美術館蔵
	13	「黒漆葡萄栗鼠図螺鈿箔絵小箱」琉球王朝時代 岡田美術館蔵
	14	森徹山「春秋図屏風」(部分) 江戸時代後期 岡田美術館蔵
	15	「色絵赤玉雲龍文鉢」有田 江戸時代 岡田美術館蔵
	16	ミュージアムショップ
	17	美術館外観
	18	開化亭
	19	足湯カフェ
	20	伊藤若冲「孔雀鳳凰図グッズ」
	21	展示室イメージ

※14、15はメインビジュアルに使用した作品です

申し込みフォーム *フォームへの記入、もしくはお名刺の添付をお願いいたします。

貴社名			
媒体名			
ご担当者様名		TEL	
部署名		FAX	
E-mail			
ご住所	〒 -		
放送・掲載内容			
放送・掲載予定日	年 月 日	放映エリア／発行部数	
弊社社内ネットワークへの記事 PDF の掲載可否	可 / 否	その他、掲載条件	